

災害は

忘れててもやつてくる！

風水害に備えてすべきこと

問 危機管理室（内線511）

災害から身を守り、被害を減らすための準備をしましょ

く」と言われますが、最近では、地震や風水害はじめとする自然災害が、日本各地で頻繁に発生しています。特に、台風や集中豪雨による風水害は毎年のように各地で大きな被害をもたらしています。

昨年10月に本州を縦断した台風19号も全国各地に甚大な被害をもたらし、千曲川などの大きな河川でも堤防が決壊しました。周辺の家屋は浸水しただけではなく、一部の家屋が流出し、病院や福祉施設などが浸水で孤立しました。その様子のニュース映像に、改めて風水害の恐ろしさを感じた方も多いかったのではないでしょうか。

土岐市では、幸い大きな被害はありませんでしたが、土岐市での過去の災害を振り返ってみると、平成元年9月20日の台風22号による豪雨災害では、土岐津町土岐口地区、泉町久尻地区の土岐川沿いを中心に市街地に濁流があふれ、463世帯が浸水し、駄知町では土砂崩れにより一人の尊い命が犠牲になりました。また、被害は市内全域におよび、被害総額は約18億円（当時）となりました。この元年の災害から30年以上が経ち、その間に土岐川も改修が行われ以前より災害に強くなりました。しかし、近年の風水害は想定を上回り、全国各地で多くの被害が発生しています。土岐市で大きな被害が発生していないのは偶然であり、ニュースで流れているような被害が起こる可能性はゼロではありません。

台風や豪雨を防ぐことはできません。しかし、被害を減らすことは可能です。その時のために、今から準備をし、皆さんの力で災害から命、財産を守りましょう。

元年の水害に思う

9月19日の深夜に自警団から緊急連絡が入り、着替えだけ済ませ、慌てて家を飛び出し津路町交差点へ向かう途中、土岐川のうねりが堤防の辺りまで上がり、恐怖を感じたことを今でも覚えています。水は、深い所では胸の辺りまであり、冠水した道路では車が浮いてしまい、皆で救助しました。妻木川には土岐川の水が逆流し、堤防を乗り越えて入ってきたのを手の打ちようもなく見守るだけでした。とにかく自分の命を守り、逃げることに精いっぱいだった記憶があります。

翌朝には水が引き、晴天になりましたが、床上浸水の家庭では畳を上げ、家具の処理に追われ大変でした。

その後、土岐川も改修され、大きな災害はありませんが、昨今の日本で起きていたる災害を思うと絶対的な安心はできません。地元自治会では元年の災害以降、共助を担う自警団の強化に力を入れ、年数回の訓練、集会を開催することで結束力を高め、「災害に強いまちづくり」をすすめ、災害に備えています。

被災地を訪れて思うこと

昨年の台風19号は、長野県に甚大な被害をもたらしました。千曲川の決壊などが連日報道され、凄まじい状況だったことは記憶に新しいところです。

私はボランティアとして千曲川周辺の被災地に入りました。この時、避難所に避難された方々は、必要最低限の物資を当日からなんとか手に入れることができましたが、多くの人は避難所にたどり着けず、地域の集会所や自宅などに避難してみました。必要物資が届いたのは3日後だったそうです。住民の皆さんがあつて言っていたのは、「今までこんなことはなかった。」「まさかこんなことになるとは。」でした。

災害とは、想定外のことが起こることであり、想定内であれば起こる可能性がかなり低くなります。最近の土岐市は全国的にも災害が少ないまちです。しかし、土岐市でも過去には想定外の災害が起っています。当時は話題になりましたが、今日では大半を忘れてしまっています。

最近、地震の多発、台風、新型コロナと色々な心配材料が増えてきました。今こそ自分自身が出来ることを考え、具体的にいつ、何をするのかを決め、防災の初めの一歩を踏み出しましょう。

肥田町
嶺嶽洋一さん



千曲川周辺の被害家屋



平成元年9月の災害の状況写真

土岐津町津路町
鈴木美好さん

自 助

自分の命、家族の命は
自らが守る

危険個所・避難経路の確認

平時からハザードマップで危険箇所や
避難経路を確認しましょう。



ハザードマップを更新します

市では、今年度ハザードマップの見直しを行い、各世帯に配布する予定です。

各家庭で保管し、いざという時のために活用してください。

問 建設総務課（内線553）

岐阜県総合防災ポータル

県内の気象情報や災害情報はじめ、平時からの防災対策を提供します。



Yahoo! 防災速報

現在地や登録した地点の地震、豪雨、津波などの情報をプッシュ通知してくれます。



iOS (iPhone・iPad)

Android

自ら防災情報を入手

最新の情報を入手して、早めの行動をしましょう。



最低3日分（7日分が理想）の水や食料品を備蓄しましょう。

家庭での備蓄



DIG (災害図上訓練) の様子



防災訓練で非常食を試食

みんなで学び、一人一人が実践すること

自助、共助で大切なことは、災害時だけではなく、普段からの心掛けと準備です。土岐津町では毎年9月に「土岐津町防災フェスタ」を開催し、災害時に役立つ炊き出しやAEDの使い方などの訓練や、家庭での備蓄などを紹介し、自助・共助の大切さを地域の皆さんに知っています。



昨年度の防災フェスタ

災害は必ず起きます。大切なことは、災害から身を守ることです。いざというときのために今日から少しずつでも、災害に対応できる準備をしましょう。

土岐津町防災の会
会長 加藤利明さん



いざという時のために 土岐市情報提供サービスの登録を



防災無線の内容や、乳幼児向けの情報、お住まいの地域のゴミの日情報などをメールで配信します。

登録は上のQRコードを読み取るか、t-toki@sg-m.jpへ空メールを送信してください。

防災無線の内容は電話でも確認できます。
テレフォンサービス ☎ 7713



防災資機材などの整備に 補助します

- ・購入経費の1/2を補助
- ・限度額は25万円

問 危機管理室
(内線511)

活用してください

市は発電機、ガス釜をはじめ、各地区に防災資機材を整備しています。また、自治会などが整備する防災資機材の購入に補助金を支給しています。

防災資機材の備蓄と 地域への補助

防災訓練やDIG（災害図上訓練）などを通して、災害時の地域の課題を確認しましょう。

地域の課題をみんなで確認
地域が助け合い、
自分たちの命を守る

近所づきあいを大切に

日頃の見守りや災害発生時は遠くの知り合いより、家族、隣人、向こう三軒両隣など、近くにいる人が頼りになります。

地域の集会場などに、ブルーシート、土のう袋、リヤカーなどの防災資機材を備蓄し、災害に備えましょう。



防災施設の整備

災害に備えて、砂防堰堤や、河川の整備をしています。



鍛冶ヶ入川第5砂防堰堤（妻木町）

防災講座の開催

学校や地域で防災に関する講座を開催するとともに、防災についてもつと知つていたい声を聞かせていただくため「出前講座」を行っています。また、地域で活躍できる防災士の養成を目的に防災リーダー養成講座を開催しています。



公助 公的機関ができること

防災講座の開催

学校や地域で防災に関する講座を開催するとともに、防災についてもつと知つていたい声を聞かせていただくため「出前講座」を行っています。また、地域で活躍できる防災士の養成を目的に防災リーダー養成講座を開催しています。

備蓄品活用法

消費期限切れの食品を備蓄していませんか？各家庭で備蓄している食材などを使って、災害を想定した「防災キャンプ」を定期的に行なうことがオススメです。

消費期限の近づいた備蓄食品、水などを使って、家族で炊き出し訓練をすることで、食品はローリングでき、カセットコンロなどのチェックもできます。

ぜひ皆さんも行ってみてください。

【備蓄品のローリング】



風水害は地震とは違い、発生までにある程度の時間が見込めるため、早めの避難行動で、被害を抑えることが可能ですが、人は「自分は大丈夫」、「みんなも避難していない」

から大丈夫」と思いがちですが、空振りを恐れずに早めの避難行動を心がけましょう。

事前チェックリスト(参考例です)

家の安全対策

- 家の周辺に飛ばされそうなものはないか
- 雨どい、雨水枠は詰まっていないか
- 雨戸はしっかりと閉まるか

家で備えておくもの

- 飲料水 1人1日3リットルを目安に、最低でも3日分
- 食料品 レトルト食品、アルファ化米、インスタントラーメン、缶詰、お菓子、バランス栄養食品など
※乳児がいる家庭は、粉ミルク、離乳食
- 衛生用品 ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、救急箱、マスク、生理用品・携帯用トイレ、体温計、除菌スプレーなど
※乳児がいる家庭は、紙おむつ、お尻ふき
- 生活用品 マッチ、ろうそく、カセットコンロ、給水用ポリタンク、懐中電灯、乾電池、軍手、ゴミ袋など

非常用持ち出し品

- 飲料水
- 非常食 カップ麺、缶詰など
- 貴重品 現金(小銭を多めに)、預金通帳、印鑑、保険証・免許証のコピー
- 衛生用品 救急箱、薬、マスク、ウェットティッシュ、替えの下着、生理用品など
- 生活用品 懐中電灯、ラジオ、携帯電話の充電器、乾電池、ヘルメット、雨具など
※季節により カイロ、蚊取り線香など

家族で共有しておくこと

- 避難場所、集合場所、避難経路を確認
- 安否確認の方法をあらかじめ確認(複数)
- 災害用伝言ダイヤル・伝言板の使用方法を確認

警戒レベルを用いた避難行動など

警戒レベル	避難情報等	住民がとるべき行動
5	災害発生情報	命を守る最善の行動
4	避難勧告 (避難指示(緊急))	危険な場所から全員避難
3	避難準備・ 高齢者等避難開始	危険な場所から高齢者などは避難
2	大雨注意報 洪水注意報	ハザードマップ等で避難方法を確認
1	早期注意情報	最新情報に注意

危険区域を調べることができるサイト

土岐市 洪水ハザードマップ

各地域ごとの浸水想定区域、危険箇所、避難場所などを記載しています。



土岐市 土砂災害ハザードマップ

各地域ごとの土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)、土砂災害警戒区域(イエローゾーン)、危険箇所、避難場所などを記載



岐阜県 ぎふ山と川の危険箇所マップ

郵便番号を入力して、その地域の洪水、土砂災害の危険箇所を調べることができます。



国土交通省 ハザードマップポータルサイト

条件を指定して、身の回りでどんな災害が起こりうるのか、調べることができます。



災害用伝言ダイヤル(音声による伝言)

1 7 1 にダイヤル

ガイダンスが流れます

録音は 1 再生は 2

ガイダンスが流れます

被災者の方の電話番号を市外局番から入力
(携帯電話の番号も利用できます。)

災害用伝言板(文字による伝言)

電気通信事業者(携帯電話各社)では、災害時に携帯電話・スマートフォン、パソコンなどで家族、知人との連絡や情報の共有などに利用できる「災害用伝言板サービス」を提供しています。

事前に各事業者のWebサイトで使用方法を確認しておきましょう。



ポイント



警戒レベル3や4が出たら、危険な場所から避難しましょう



「避難」とは「難」を「避」けることです

安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません



避難先は小中学校・公民館だけではありません

安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう

避難行動フロー

ハザードマップ*で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう

家がある場所に色が塗られていますか?

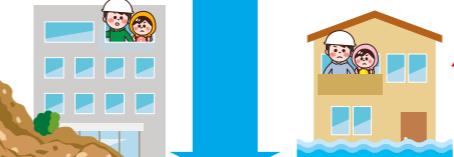
はい

*ハザードマップは浸水や土砂災害が発生する恐れの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

色が塗られていても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。

例外



浸水の危険があっても次の場合は自宅に留まり安全確保することも可能です。

- ①浸水する深さよりも高いところにいる。
- ②浸水しても水がひくまで自宅に留まり安全が確保されている。
- ③土砂災害の危険があっても、頑丈なマンションなどの上層階に住んでいる。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか?

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

はい

警戒レベル3が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

はい

警戒レベル4が出たら、**市が指定している指定緊急避難場所に避難**

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

はい

警戒レベル4が出たら、**市が指定している指定緊急避難場所に避難**

避難における新型コロナウイルス対策

分散避難を考えましょう

避難所での避難生活は、感染リスクが高いです。過去には、避難所でインフルエンザの感染が広がった例もあります。避難所以外の安全な場所への避難を選択肢に入れ、感染拡大を防ぎましょう。

避難所に行く前に

- ・体調がすぐれない人は、病院に行きましょう。
- ・新型コロナ感染の疑いがある人は、保健所に相談しましょう。

避難所の受付では

- ・避難所の受付では、検温、体調チェックをします。
- ・体調不良の人は、教室などの別室へ案内します。

避難所の中では

- ・避難所のブースは、2m程度の間隔を確保します。
- ・マスクを着用し、できる限り人ととの距離を確保しましょう。

避難所へ行く際には、各家庭に本紙6月号と同時に配布しました「避難者カード」、「健康状態チェックカード」に記入した上で来場してください。